

# 経済マンスリー

## [原油]

### 原油市場を取り巻く環境(10月)

#### 1. 原油価格の推移

原油価格(WTI期近物1バレル当たり)は、10月2日に米国トランプ大統領が新型コロナウイルスに感染したとの報道等を受け、37ドル台まで下落した。中旬にかけては、ノルウェー海洋油田におけるストライキやハリケーンのメキシコ湾岸襲来等による供給障害懸念を受け価格が上昇した後、米国原油在庫や協調減産の動向等を受けもみ合う展開となった。足元では、欧州の一部で行動制限が再強化されたこと等による需要下振れ懸念やリビアの生産動向、米国株式相場等を背景に下落し、35ドル台で推移している(第1図・上)。

#### 2. 需給の動向

EIA月報によると、9月の世界の原油需要は日量9,526万バレル、供給は同9,170万バレルと、4ヵ月連続で需要超過となり、需要の回復が進む一方で、供給は絞られている状態の継続が確認された(第1図・下)。OPECプラスの協調減産をみても、主要産油国の減産遵守率は高く、8月の遵守率が10%だったUAEも9月は102%と大幅に上昇している(第1表)。協調減産に関しては、現行の減産目標日量770万バレルは、来年1月以降、同580万バレルに規模縮小(即ち増産)される予定であるが、10月上旬に一時その延期観測が浮上した。結局、10月19日のOPECプラス合同閣僚監視委員会では、事前観測と異なり延期の決定はなかった(即ち予定通り減産規模縮小)が、22日にロシアのプーチン大統領が、同770万バレルの協調減産が市場の安定に必要なならば、継続を排除しないという趣旨の発言をしたことや、リビアが増産する見込みであること等を踏まえると、12月のOPEC定時総会にて減産規模縮小が延期され供給が引き続き絞られる可能性があるだろう。もともと、欧米で感染が再拡大し、欧州では再度ロックダウンする国も出てくる中、肝心の需要側が下振れすることによる価格下落リスクが高まっている点には要注意である。

第1図:原油価格及び世界の需給バランスの推移



(資料)EIA資料、Bloombergより三菱UFJ銀行経済調査室作成

第1表:OPECプラス各国の生産実績・目標

	(百万バレル/日)			遵守率 (%)
	2018年10月の 生産実績	2020年8-12月の 生産目標	2020年9月の 生産実績	
サウジアラビア	11.00	8.99	8.98	101
イラク	4.65	3.80	3.65	118
UAE	3.17	2.59	2.58	102
その他	7.86	6.44	6.32	108
<b>OPEC10</b>	<b>26.68</b>	<b>21.82</b>	<b>21.53</b>	<b>106</b>
ロシア	11.00	8.99	9.08	96
カザフスタン	1.71	1.40	1.37	110
その他	2.71	2.21	2.20	102
<b>非OPEC</b>	<b>15.42</b>	<b>12.60</b>	<b>12.65</b>	<b>99</b>
<b>合計</b>	<b>42.10</b>	<b>34.42</b>	<b>34.18</b>	<b>103</b>

(資料)IEA資料より三菱UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱 UFJ 銀行 経済調査室 中山 健悟 kengo\_nakayama@mufg.jp  
鷹巣 里奈 rina\_takasu@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。